

熱処理で 「金属に魂を入れる」



朝日熱処理工業株式会社

数万種類におよぶ 熱処理の実績

朝日熱処理工業は社名が示す通り、創業以来卓越した技術で、数万種類におよぶ様々な熱処理加工を手がけてきた実績を持つ。「私たちは『金属に魂を入れてやる』との思いで熱処理に取り組んでいます。魂が入っていない熱処理部品は耐久性が低く寿命が短いのです」と語る村田茂社長。

金属は熱処理加工が不十分だと、磨耗性等の耐性が低くなり、寿命が短くなってしまう。非鉄金属を含む、ほとんどすべての金属は、熱処理加工により金属の組織を最適化して、耐久性や耐摩耗性、強度等の特性を上げ、寿命を伸ばすことができる。そのため特に自動車業界等、安全を第一に重視する業界をはじめ、熱処理加工は最重要工程に位置づけられる。その重要工程を同社に依頼する企業は引きも切らない。自動車から家電、釣り具業界まで幅広い分野に顧客を持ち、その数は2400社におよぶという。

マイクロメートル単位で 寸法をコントロール

ガス軟窒化処理（SNプロセス）、精密低温窒化処理、イオン窒化処理、真空熱処理、浸炭焼入れ、浸炭窒化処理等、同社が保有する熱処理加工技術は様々。用途や金属材料に応じて使い分け、顧客にとって最適な金属組織に仕上げる。同社がメイン技術と位置づけるSNプロセスはほとんどの鉄鋼材料に利用でき、加工温度が約570℃とほかの処理方法と比較して、低温での加工を可能としている。また一般的に熱処理を施すと、熱膨張等が起こるため寸法を合わせるのが難しくなるが、同社では10mm単位で寸法をコントロールでき、1000個なら1000個同じ大きさに揃えることができるという。

個人が成長する会社 会社が成長する会社

同社の社訓は「よく学び・よく働き・よく遊ぶ」。村田社長は「会社の成長は、つまりは個人の成長にかかっています。そのため社員教育には最も力を入れています」と話す。実際、社員教育にかけるコストには、あえて上限を定めていない。個人の成長なくして、技術を生み出すことも使いこなすこともできないという強い思いがそこにある。

同社では工場長が講師として月2回程度1～2時間ずつ従業員に講義しているほか、毎年実施している工場見学会には社員全員が参加。

海外へも若手とベテランが分け隔てなく視察に行っているという。熱処理技能検定等の資格取得にも積極的だ。個人が成長し会社が成長することで、社会の発展に寄与したいのだという。

「人類の道具の歴史上、現在もお鉄器時代が続いているという見方もできます。その基幹素材である金属に魂を入れる熱処理という仕事に誇りを持って、社会のお役に立てる会社を目指し続けます」。

主な事業内容

ガス軟窒化処理・精密低温窒化処理・真空熱処理・浸炭焼入れ・浸炭窒化処理・その他熱処理等



村田 茂さん
代表取締役社長

朝日熱処理工業株式会社

Company
Profile

住所 / 〒572-0075
大阪府寝屋川市葛原2-9-1
設立 / 昭和53年8月
資本金 / 4,900万円
従業員 / 36名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-827-1139
FAX / 072-826-0462

ISO 9001



<http://www.asahi-nets.com/>